

正しい理解と周囲のサポートのための
コミュニケーションガイド

しつ ご しょう
失 語 症



広島県脳卒中・心臓病等総合支援センター

一般社団法人 広島県言語聴覚士会



Q1

失語症とはどのような症状ですか？



失語症は、脳の言語機能が損傷されることでおこる言語障害です。

原因：脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）、頭部外傷、脳腫瘍など

症状：相手の話を理解することが難しくなったり、ことばがうまく出てこなかったりします。その症状は、後遺症として残る場合があり、回復の程度は人によりさまざまです。

話す



- ・ことばがほとんど出ない。言えない。
- ・ことばに詰まる。
- ・言いたいことばと違うことばが出てしまう。
- ・ことばの音を間違えてしまう。

聞く



- ・耳は聞こえるのに、聞いたことが理解できない。
- ・違う意味に取り違える。
- ・大まかには分かっても、細かいことは分からない。
- ・長い話、情報量の多い話は理解できない。

表現

理解

書く



- ・文字が思い浮かばない。
- ・間違った字を書いてしまう。

読む



- ・読んで理解できない。
- ・音読できても、意味が分からない。

失語症と間違えやすい症状

認知症

認知症は記憶することが難しいですが、失語症はことばが思い出せなかったり、スムーズに出ない状態で、物事の記憶が出来ないわけではありません。

構音障害

構音障害は舌や口唇の麻痺により話しにくい状態ですが、失語症は麻痺が原因でなく、ことばを思い出すのが難しい状態です。

Q2

失語症になるとどんなことに困りますか？



失語症は外見からはわかりにくいいため周囲から誤解されてしまうことがあります。話しかけられても返事ができなかったり、複数人での会話についていけなかったりします。また、パソコンやスマートフォンの操作などにも大きな負担が生じます。生活の様々な場面で困ることがたくさんあり、人との交流を避け、閉じこもりがちになってしまうことがあります。

例えば、こんな場面・・・



失語症のある人たちにとって、「周囲の理解」と「適切なサポート」は、生活が広がるうえで大きな力となります。次のページをご覧ください。

Q3 失語症のある人へは、 どのような支援を行えばよいでしょうか？



ことばが難しくなっても、状況を判断する力や記憶はこれまでと変わりません。意思を尊重し、自己選択や自己決定を大切にする関わりが求められます。会話相手の配慮や工夫によって、コミュニケーションはとりやすくなります。何より大切なのは周囲の「相手を知りたい、わかりたい」という思いが支えとなるサポートです。

話し方のポイント

- ・短い文でゆっくり話す
- ・身振りをつけながら伝える
- ・ことばだけではなく、要点を文字や絵で伝える
- ・はい/いいえで答えられる問いかけにする
- ・選択肢から選んで答えられる問いかけにする

聞くときのポイント

- ・本人の表出・理解のテンポに合わせる
- ・ゆっくり待つ（せかさない）
- ・理解できたことを確認しながら聞く
- ・わからないときは素直に伝え謝る



ことばを使うことにおいて疲れやすくなることがあります。静かな環境で話すことや、お互いが無理をせず休憩を取りながら会話を進めることも大切です。

コミュニケーションに役立つものを積極的に利用する

文字や絵を書いて伝える紙とペンの他、カレンダーや地図、時計、スマホ画面等の目で見ても情報が得られるツールが役立ちます。50音表は使うことが難しいです。



失語症のリハビリテーションは、言語聴覚士が行い、病院、施設などで援助を行っています。

「一般社団法人 広島県言語聴覚士会」のホームページには「言語聴覚士のいる施設リスト」、「失語症者の集いの場（失語症サロン）」、「失語症者向け意思疎通支援者」についても掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

一般社団法人
広島県言語聴覚士会
ホームページ

広島県言語聴覚士会



メニュー内
「一般の方」を
選択してください